

# たくましい社会性に関する縦断的研究 (7)

○二宮 克美 ・ 山岸 明子 ・ 首藤 敏元

(愛知学院大学情報社会政策学部) (順天堂医療短期大学) (埼玉大学教育学部)

【目的】「たくましい社会性」に関する調査を小学校5年生、中学校1年生および3年生の3時点で実施した。その縦断的データについて「調和」と「独自性」の側面から、発達的变化を記述するとともにその特徴を明らかにするのが目的である。

【方法】<質問項目> (1)調和：共感性7項目、向社会的コンピテンス10項目に対して、5段階評定を求めた。(2)独自性：自立感5項目、自己効力感7項目に対して、5段階評定を求めた。

<被調査者> 1994年1月当時に、小学校5年生で本調査を受け、1996年1月に中学校1年生で再度調査を受け、さらに1997年12月～1998年1月に中学校3年生の時点で調査を受けた者 324名(男子166名、女子158名)である。

【結果 および 考察】 (1)クラスター分析 調和と独自性の縦断的データについてクラスター分析をした結果、当初想定した4群(III、II、LI、LL)の他に、学年進行により低下する群(クラスター-1)

と上昇する群(クラスター-6)が見出された。低下する群には男子が多く、上昇する群には女子が多いという特徴がある。調和も独自性も低い群(LL)と調和が低く独自性が高い群(LI)には男子が多かった。一方、調和が高く独自性が低い群(III)や両方高い群(II)には女子が多かった。

(2)性別×クラスター×学年の分散分析 民主的価値意識では、性別とクラスターの主効果が認められた。女子の方が、民主的価値意識は高い。またIII群やII群の得点が高い。上昇群とII群が、学年進行により得点が増加している。向社会的行動、孤独感、学校への好意度では、クラスターと学年の主効果が認められ、またその交互作用が有意であった。向社会的行動と学校への好意度では、III群が最も得点が高く、LL群が低い。低下群は学年進行により向社会的行動も減少していく。また、学校への好意度は中3になって低下する。孤独感に関しては、LL群が最も高く、III群が最も低い。低下群は中3になって、孤独感が増していく。

表. クラスター分析の結果

n=324		クラスター-1: 低下 64=男39女25	クラスター-2: LL群 58=男41女17	クラスター-3: LI群 45=男36女 9	クラスター-4: III群 55=男 9女46	クラスター-5: II群 54=男22女32	クラスター-6: 上昇 48=男19女29
小5	調和	0.08 (0.57)	-0.79 (0.80)	-0.85 (0.87)	0.72 (0.55)	0.89 (0.39)	-0.19 (0.66)
	独自	0.34 (0.59)	-0.74 (0.53)	0.82 (0.82)	-0.63 (0.60)	0.82 (0.63)	-0.54 (0.61)
中1	調和	-0.18 (0.57)	-0.77 (0.76)	-0.85 (0.76)	0.68 (0.76)	0.84 (0.62)	0.24 (0.63)
	独自	0.13 (0.51)	-0.96 (0.57)	1.06 (0.60)	-0.72 (0.49)	0.86 (0.59)	-0.14 (0.59)
中3	調和	-0.66 (0.61)	-0.62 (0.77)	-0.55 (0.88)	0.85 (0.61)	0.77 (0.60)	0.30 (0.57)
	独自	-0.33 (0.55)	-0.79 (0.51)	0.98 (0.71)	-0.69 (0.62)	0.66 (0.79)	0.52 (0.56)

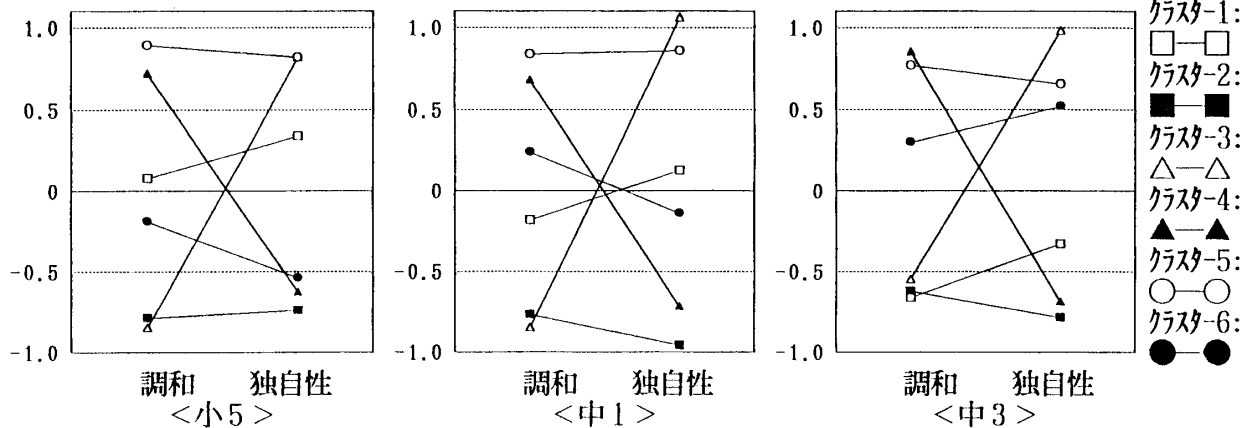


図. 縦断的データについてのクラスターパターン